

第1回 長崎港元船地区整備構想検討会議 会議録

日時:令和5年5月15日(月)15時~

場所:長崎県庁1階 大会議室C

- 【開 会】
- 【議 事】
 1. 整備構想コンセプト(案)について
 2. 整備のあり方を考えるポイント(案)について
 3. 整備のイメージ(案)について
- 【閉 会】

【配布資料】

- 資料1 出席者名簿
- 資料2 配席図
- 資料3 長崎港元船地区整備構想検討会議 設置要綱(案)
- 資料4 整備構想コンセプト(案)
- 資料5 整備のあり方を考えるポイント(案)
- 資料6 整備のイメージ(案)
- 資料7 今後の想定スケジュール

【会議結果】

○コンセプトは、「長崎・元船 OASIS」~海と船の楽しさ感じる、島と食と人との交流空間~
で当会議として決定する。

○整備のあり方を考えるポイントは、以下のポイントで詳細検討に移る。

- ①暮らしを支える国内ターミナル機能等の強化による利便性向上
 - <1-1>ターミナル施設の機能充実、バリアフリー化・延命化の推進
 - <1-2>岸壁の耐震性検討と対象船型の見直し・リダンダンシー確保
 - <1-3>上屋の再配置と機能強化
- ②臨海部を活かした観光・交流機能等による賑わいの創出
 - <2-1>観光クルーズ、ヨット施設の再配置による賑わいづくり
 - <2-2>港、水辺を活かした交流施設の配置による港の魅力の向上
 - <2-3>広場活用による賑わいづくり
 - <2-4>施設の立体活用による魅力の向上
- ③車両や歩行者にとって優しいみちづくりによる利便性向上
 - <3-1>道路・駐車場の再編整備による交通渋滞の緩和
 - <3-2>公共交通等によるターミナルへのアクセス性の向上
 - <3-3>歩行者回遊性の向上
- ④港、海が感じられる景観による魅力の向上
 - <4-1>休息空間を含めた長崎港の景観性向上
 - <4-2>外から見る元船地区の景観性向上
- ⑤公共、民間が連携した整備、運営、維持管理の実施による質の向上
 - <5-1>民間活力の導入による官民連携事業の検討

○整備のイメージは、資料6の施設整備の方向性および、フェリー・定期 RORO 船ともに、元船地区に配置想定にて、施設配置計画を検討し、第2回会議で審議する。

【会議詳細】

○主催者挨拶（長崎県副知事）

- ・長崎県にとって、港湾は人流物流、特に離島航路などの拠点。また、元船地区は、長崎港における観光の拠点かつ交流の場にもなっているところで、非常に大切なインフラ。まさに長崎の港の玄関口。
- ・ナガサキアーバンルネッサンス 2001 構想に基づく内航地区の再開発事業などにより、現在の姿が形成。
- ・しかし、整備後、30 年ほど経過をしており、施設の老朽化が進んでいる。また、バリアフリーに対応できていないとか、ターミナル利用者・商業施設利用者、物流事業者などで道路が混雑していて、歩行者の回遊性とか安全性の課題もある。
- ・こうした課題を解決していくためには、港湾の人流物流に関係する施設等をどう配置していくか、港湾機能をどう果たしていくかとの検討が必要。
- ・長崎市内では長崎駅周辺や松が枝地区のふ頭整備も進んでおり、まさに変革期を迎える大きな流れの中で、どのような整備をしていくかの検討が必要。
- ・そのため、課題を解決しながら、港湾機能、或いはにぎわいの創出に向け、観光交流機能も含めた元船地区のあり方となる整備構想というものを策定できないかと考えている。
- ・本日は、第 1 回の会議ということで、コンセプトや整備のイメージなどについてご議論いただきたい。
- ・これまで事務局で検討した蓄積もある中、各委員の様々な分野からの議論をいただきながら進めていくべき話だと思っている。

○資料3 長崎港元船地区整備構想検討会議 設置要綱(案)

- ・異議なしにて原案の通り承認。施行日は令和5年5月15日。

~~~~以下、議事内容~~~~

### ○資料4 整備構想コンセプト(案)

#### (委員)

- ・現在、「長崎都心まちづくり構想」を今年度中の策定を目指して進めている。
- ・まちづくり構想そのものが、いわゆる長崎駅であるとか、今後大きな集客の拠点となるところからの人の流れを、都市部全体に回遊させる。そういった役割を持った都市づくりをしていきたいと思いますというのが 1 点。
- ・元船地区については、今後さらに高度利用を、いわゆる活性化を図っていける余地のある地区だと思っている。それに先んじて、臨海部の国道に面したところから、容積率を高く変更している。そのため、にぎわいをもたらすということを軸足とした整備構想があるということは非常に心強いこと。
- ・県とも足並みをそろえ、連携して、構想の策定取り組んでいきたいと考えている。

### (委員)

- ・長崎港には五島行きを中心とした離島向けの、人事物流の拠点が置かれている。この分野の施設の老朽化やバリアフリー対策および効率性の向上は、離島向けの人物流の安定的な輸送に繋がるということで非常に素晴らしい計画。
- ・その中でお願いをしたいのはやはり離島地域で大きな災害が起きた。その時にこの元船地区っていうのは非常に重要な拠点になる。フェリー岸壁の強度や連絡橋も含め、新しい整備の計画となるように、事務局においてもご検討いただければ。
- ・それともう1点。長崎港の課題として、内航貨物船の係留場所が非常に少ない。元船地区での配置は非常に難しいかと思うので、長崎港内のしかるべきところに形成するような、整備計画もあわせてお願いをしたい。

### (委員)

- ・説明があったとおり、元船地区は人流物流の拠点である。その機能は先ほどの防災の観点からもしっかりと整備していただきたい。特に五島においては、元船地区が拠点という意識になっているので、人流物流ともに、五島列島への窓口という機能しっかりと果たしてもらうような機能整備を行っていただきたい。
- ・それともう一つ、ターミナルとの動線の話。現状、雨に濡れずにターミナルまで来れない。動線のバリアフリー化と雨に濡れない快適性を求めてほしい。
- ・また、ターミナル前に浮棧橋は既存の屋根があるが、この機能も今後とも十分に維持して頂きたい。
- ・出島ワーフ側の浮棧橋だが、こちらの方は特に軍艦島クルーズをはじめとした、観光船が発着する重要な場所。修学旅行者や団体客も多数来られており、観光クルーズの拠点となっている。しかし、浮棧橋やターミナルから浮棧橋まで行く動線に屋根がないため、天候が悪い日には、利用客に迷惑をかけている。利用者の利便性向上のためには、通路上や浮棧橋に屋根を設置するべきと思うので、是非、検討して頂きたい。

### (委員)

- ・整備構想コンセプトは、大変よくできており、何か異論を唱えるところはない。
- ・地元としては、生活の拠点、要するに地域の視点ということで、一番長く付き合うこととなるので、地域の人達との繋がりが一番大きいのではないかと思う。今後、具体的な内容を掘り下げていく中で、どんな設備を作っていくのか。長崎元船 OASIS がより良いものになるよう、一緒に地元としても提案していきたいと思う。

### (委員)

- ・コンセプトにある、「海と船の楽しさを感じる島と食と人との交流空間」が非常にいいと思う。そのような空間をぜひ作っていただきたい。
- ・先ほどあった修学旅行者とか、そのような大人数が、長崎を感じられる食ができる施設であるとかあると非常に良いのかなと思っている。出島メッセ長崎で、会議があった際にも夜のパーティとかでも活用できる。
- ・それからもう一つは長崎らしさを兼ね備えたユニークベニュー（特別な場所）として活用できれば、非常に良いのかなと思う。
- ・外から見たときに夜景のライトアップ、ここが一つシンボルになればよい。

### (議長)

では、整備コンセプト案については、特段ご異論がないようなので、これについては原案の通り承認することでよいか。もちろん、今後議論を重ねるうえでより良いコンセプトにできるのであればそれはその際に更新していく。

### (全委員)

- ・異議なしにて原案の通り承認

## ○資料5 整備のあり方を考えるポイント(案)

### (委員)

- ・何もツッコミどころがないくらい、よくまとめられており、いい計画である。
- ・子供たち、若者世代も含めて、魅力のある使い方ができる施設を作って、地区の方ではなく、地区外の方も、入り込み一体となっていくことが大事。やはり、わくわくするような夢のある計画であってほしい。
- ・渋滞対策、アクセス性の向上が必要。

### (委員)

- ・観光交流機能については、箱物整備ありきではなく、広い空間として持っておき、大規模に展開できるイベント広場としての空間も検討していいのではないかと。普段は広場として開放して、何か臨時のイベントとか、そういったものをいつでも誘致できるような体制を作っておく。マニアックイベントとしても集うことのできる空間になる。ある時には、子供さん連れの方々のための空間にもなるなど、いろんな土地の使い方に繋がってくる。
- ・海洋博物館や、水族館、地産地消の店舗、アクアスパなどもいいと思うが、それを目的とした人しかこなくなってしまうし、他に新しいものができればそこの競争になり、将来的に陳腐化するということが予想される。
- ・特定の箱物を作ってしまうことだけをゴールとして何を作ろうかっていう視点だけにこだわらないような考え方で事務局は作業を進めていただければ。

### (委員)

- ・長崎駅から元船地区まで歩くにはかなり距離がある。そのために新モビリティをどう活用できるのかなということにすごく興味がある。
- ・長崎市まちづくり部へお聞きをしたいが、長崎市のまちづくり計画の中で、新モビリティをどう位置付けてまちなかへの動線づくりをしていこうと、考えているのか。そこをもう少し深掘りしてご検討いただければ。長崎市のまちづくりとして、今後バリアフリーの時代で、拠点内、或いは拠点同士を結ぶ動線づくりの中で、新モビリティについて研究を進めていただいて、住む人にも訪れる人にもやさしいまちづくりを目指すような方向でご検討いただければ。

### (委員)

- ・先ほどご説明した「長崎都心まちづくり構想」にも、新モビリティの検討は含めている。例えば、今の道路基準で言えば歩道と車道の幅員となっているが、今後、将来的に新モビリティの走行も予想されることから、今後の整備はそれらの利用も想定したうえで道路空間整備をしていこうとの構想にしたいと考えている。

- ・今回の元船地区を含めた臨海部は、グリーンスローモビリティが非常に有効に使えるツールになるのかなと思っている。今嬉野温泉駅の周辺で実装に向けた実験がなされており、状況の把握に努めているところ。
- ・駅周辺整備やジャパネットスタジアムシティでも今後、交通の動きが生じてくる。そのような中、新モビリティは、実験的に、積み重なって行って、いずれはレベルⅣという、無人運転が可能になるという時代になる。それが導入できるような都市インフラ整備を先駆けてやっていくという意識を持って、今後のまちづくりの方向性として、「長崎都心まちづくり構想」をできる限り近い時期にとりまとめていきたい。

#### (委員)

- ・広域的周遊観光も大事。そのためには、長崎駅と元船地区の動線は、新モビリティにしても、重要な視点というのを常に念頭に置いて、今後検討していただきたい。旅行者にとっては、長崎駅から元船地区まで移動する際に、周辺渋滞で時間がかかることがある。旅行者目線でいかに広域的に周遊できる環境とするかも考えていく必要がある。
- ・今後の整備に関しては、民間事業者も含めて、検討されるかと思うが、何らかの格好で、例えば世界一とか、日本一とか、或いはオンリーワンとか、ここが観光のディステーションとして、認識されるような視点でご検討していただければと思う。
- ・方向性にしても、先ほどのコンセプトにしても、非常に内容の濃いもので、よくまとめられている。「長崎・元船 OASIS」も非常にいいネーミング。この施設やエリアの愛称としても「長崎・元船 OASIS」で長く使われればいいと思う。

#### (委員)

- ・まちづくり関係の議論の場では、最近の世の中の変化の動向はスピードが速くて、将来を見通すのはすごく難しいとの話になる。そのため、将来については予測不能分も非常に多い。
- ・今回の整備構想は今の時点でわかる夢みたいなものを語る一方で、うまく方向性だけは出して、将来の対する可変性を見越したような進め方、或いはまとめ方ができるといいと思う。
- ・そのためにも施設誘致の観点では、施設内容をあまり決め過ぎずに、場合によってはその時々状況を見ながら変えていくというようなことを意識した進め方になるような、まとめ方がよいと思う。

#### (委員)

- ・まちなかとのしっかりした連携をお願いしたい。元船地区は非常に重要な場所。今回の整備構想の実施で集まった人たちがしっかり回遊できるような、そういう仕組みづくりをしていただければありがたい。そのためにも、アクセス性の改善は非常に重要だと思う。
- ・また、民間活力の導入については、非常に大事なことなので、特に地元企業の皆さんの知恵をしっかり引っ張り出していただくような方向性が必要かと思う。

#### (議長)

では、整備のあり方を考えるポイント案については、本日いただいた皆様のご意見を踏まえながら、今後このポイントに沿って整備構想の検討を進めていくということによろしいか。

**(全委員)**

・異議なし

**○資料6 整備のイメージ(案)**

**(委員)**

- ・やはり離島航路のですね、物流の安定的輸送という観点からいたしますと、フェリーと定期貨物船の配置を合わせて実施しないと、運用上、大きな支障が発生をする。利用者はフェリー、定期貨物船と共同利用される方々もいて、持ち込む場所が違うと交通の問題も含めて、いろいろな支障が出てくる。
- ・また、海上の静穏性や継続的な運航も含めると、元船地区の北西部に共同で、フェリーと定期貨物船の運営を配置するということがベストだろうと思う。

**(委員)**

- ・定期 RORO 船というのは、専門でない方にはすごく分かりにくい表現のため、「貨物フェリー」、一般的に人の移動で利用されるフェリーを「旅客フェリー」とした方が分かりやすいのでは。
- ・旅客フェリーのドック時には貨物の輸送量がどうしても足りていない。そのため、輸送の代替機能となる貨物フェリーがないと安定的な貨物供給ができないため、元船地区に定期貨物フェリー機能は必要。ただ、コンテナ船とか他の物流船は別の場所に持っていくということで集約する。それが一番よい。
- ・五島列島の方の生活物資機能を担うという意味で、とにかく旅客フェリーも定期貨物フェリーも元船地区に必要ということ、ここで強調しておきたい。

**(議長)**

本日出たご意見の中で、定期貨物フェリーはどうするかということで、これについては、五島への安定的な物資の供給のためにも、定期貨物フェリー用のスペースを確保した方がよいとのことであったが他にご意見あるか。

**(全委員)**

異議なし

**(議長)**

では、検討会議の場ではそうした意見が優勢であったということで、今後のより具体的な施設計画の案を作っていく、それを踏まえてまた次回の検討会でご審議いただくということにしたいと思うがよいか。

**(全委員)**

異議なし

~~~~~以上、議事内容~~~~~

○資料7 今後の想定スケジュール

意見なし